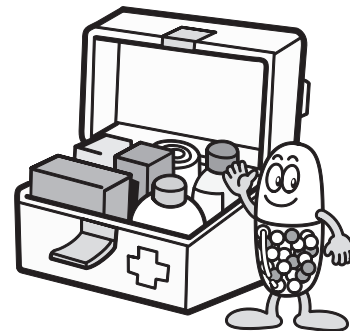


# く す り ば こ



## 60. 持参薬について

入院後もそのまま継続して治療を続けられるよう、患者様には入院の際に日頃服用しているお薬を持参していただいています。その際、最近では院外処方が進んでいることやジェネリック医薬品が広く使われていることなどもあり、持参していただいたお薬をこちらでチェックすることが必要となります。

お薬がどれくらい残っているか、持参薬がなくなった時は当院で採用されているどのお薬がそれに相当するのか、またお薬の用量・服用方法など確認事項はたくさんあります。手術や検査前に服用を中止しなければならないお薬などもあります。

昨年の8月から薬剤部でそのチェックを始め、これまでたくさんの持参薬を目にしてきました。ピルケースにご自身でセットされている方や調剤された通りにそれぞれの薬袋からきちんと服用されている方がいる一方で、用法・用量が全て頭の中に記憶されていると思われる方に関しては、服用方法の違うお薬が全部ひとつの袋に入っていることもあります。また、現在服用されていないお薬(かなり前に中止となったものや変更となったもの)なども大事に保管されていて、すべてを入院時に持参される方などもいらっしゃいます。

持参薬に「お薬手帳」や「薬の説明書」が一緒に添付されていない場合には、現在どのお薬を服用しているのかわかりませんし、きちんとした用法・用量を正確に知る事が出来ません。薬剤部でチェックする際には直接患者様に確認できる状況ではありませんので、不確かな情報のまま「用法・用量不明」という形で医師、看護師に伝えることになってしまいます。紹介状に処方内容が記載されていない場合もあります。

担当医師が現在の服用状況を正確に把握し、素早い治療を開始するためにも、お薬を持参される際には「お薬手帳」なども一緒に持ってきていただくことをお願いしております。

また、何ヶ月分にもなるお薬を持参される方もいらっしゃいます。以前、ある入院患者様からこんなお話を聞いたことがあります。

「いつも少しずつ多めにもらうからどんどんたまってきたちゃって……。でも先生は毎回お薬出して下さるのに断ると失礼だし。それに、余っていると言うとちゃんと飲んでないと思われちゃうかもしれないでしょ。」と。

確かにお気持ちはわかりますが、どれくらいお薬が残っているか、担当医師に状況をお話いただくのも大事なことです。特に下剤など調節して服用するお薬などは余ってしまうことが多いようです。予約日に来院できなかった場合の予備として、ある程度手元に置いておくことも必要なことだと思います。しかし、余っていつも捨ててしまうという話も度々耳にします。皆さんの税金でまかなわれている医療費の削減のためにも、お薬は有効に使っていききたいものです。



薬剤部 浅井 由樹子